

1 研究テーマ

「生きる力」をはぐくむ社会科授業の展開
～学び方を学ぶ地理学習の展開をめざして～

2 はじめに

昨年度、平成14年度から、完全学校週5日制の実施とともに、新しい学習指導要領による教育活動が本格的に始まった。しかし、「生きる力」「学び方を学ぶ」「総合的な学習」という言葉ばかりが頭の中で空回りし、実態がつかめないでいる。

社会科教師である私にとって、社会科の授業を通してはぐくむ「生きる力」とは何か。漠然とした状態では、今後の授業に差しつかえる。「学び方を学ぶ」にしても然り、「総合的な学習」の「総合的」にしても然り、それらを追究しない限り、これからの新しい教育を背負って立つことはできないと考え、研究を進めることにした。

3 研究の概要

(1) 研究の目的

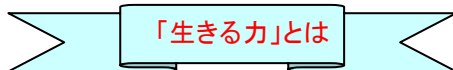
- ・社会科の授業を通してはぐくむ「生きる力」とは何か。
- ・「学び方を学ぶ」地理学習とはどのようなものか、また、なぜ必要なのか。
- ・授業実践を通して学習過程及び指導方法について検証。

(2) 研究の仮説

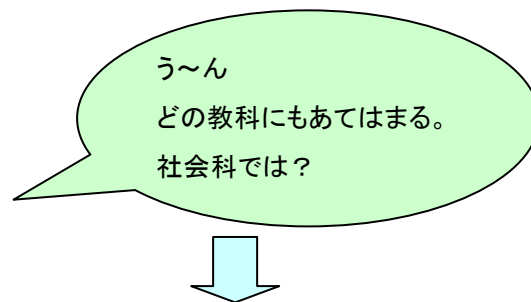
生徒が主体的に学習に取り組む活動を通して地理的な技能や知識を獲得し、さらにそれを表現するまでの学習過程を工夫すれば「学び方を学ぶ学習」の充実が図れるであろう。

4 研究の内容

(1) 「生きる力」と社会科について



いかに社会が変化しようと、自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力（中央教育審議会の答申）



社会科の授業でつける「生きる力」とは、「多面的・多角的」な思考に特色のある問題解決能力を育てること。

(2) 「学び方を学ぶ」とは

「生きる力」をはぐくむためには
学び方を身に付ける

う～ん、これも
どの教科にもあてはまる。
「学び方を学ぶ」地理学習と
は？

- ・地域的特色を明らかにする視点や方法などが学べるような学習。
- ・自らの力で変化する地域的特色をとらえることができるような学習。
- ・世界や日本の地理的認識を深める上で基礎となる知識や調べ方、学び方が身に付くような学習。
- ・資料の活用も含めて学び方を学べるような学習。 など

5 検証授業

(1) 「学び方」を身に付ける授業展開（調べ学習）の工夫

コンピュータ教室や図書室の利用，国や県が発行している統計資料の利用，インターネットの利用，「多面的・多角的」な見方や考え方に触れさせる，集めた統計資料を地図化・グラフ化する，集めた統計資料に自分たちの考察を加える，など。

教科書，地図帳，資料集，白地図などの活用も，学び方を学ぶ学習ととらえることができる。生徒からの「資料集の何ページにこんなのが載ってるよ。」という紹介も，「学び方を学んだ」ととらえた。



(2) 「学び方」を身に付ける授業展開（発表）の工夫

地域的特色，一般的共通性について発表する。特色をとらえるために工夫したことについて発表する。という2つの視点をもたせた。発表の中に，「このことから地域的特色は……と言えます。」「特色をとらえるために工夫したことは……です。」ということを入れさせた。



6 研究のまとめ

(1) 研究の成果

本研究を振り返ってみると、テーマについて考察していく中で、自ら考え自ら学ぶ力などの「生きる力」をはぐくむことがこれからの教育に求められていることが、自分自身のこととして感じられるようになった。

研究の内容として、社会科ではぐくむ「生きる力」とは「多面的・多角的」な思考であり、課題解決の能力であること、具体的な場面での「多面的・多角的」な思考のさせ方、「学び方を学ぶ」とは具体的にどういうことか研究を深めることができた。さらに、鳥取県の教育の現状と課題についても考察することができた。

一方、検証授業を通して、具体的に「学び方を学ぶ」地理学習の展開が図れた。授業を構想する過程で、深く教材研究をすることができ私自身の力量を高めることができた。また、分析と考察を加える中で「学び方」が深く検証された。調べ学習や発表学習を通して生徒に身に付けてほしい「学び方」とは、情報の収集・分析・考察などの資料活用能力、地域的特色、一般的共通性を捉える能力、特色を捉えるための工夫などであり、表現する能力や態度も「学び方」であるということである。そしてある程度は「学び方」を生徒に身に付けさせることができたと考える。

(2) 今後の課題

課題として、特に検証授業を通して見えてきたことは、単元構成と同時に、意欲を掻き立てる課題設定の仕方を工夫することである。自らが調べてみよう、調べてみたいと思わせる教材を持ってくる必要がある。教材の開発である。本研究で、「過疎地域の人々の生活について調べよう」（佐治村を例に）という教材開発を試みたが、不十分に終わった。教師自らが取材活動を行って、それを生徒に追体験させることが学び方を学ぶ地理学習にふさわしいと考えたが、時間の制約や生徒を教室の外に出すことについての不安があり実行に移せなかった。現場に帰ってこの教材をさらに充実したものに仕上げ、自分が担当するクラスで実践したいと考える。

さらに、学び方をどう評価するのか。学び方は明らかにできたが、それを見取るための具体的な評価規準を工夫する必要がある。そして、それを指導に生かすための「評価の工夫と改善」を課題として挙げるができる。

また、この学び方を学べるような学習、展開の場面を、年2～3回位置づけた年間指導計画を作成する必要がある。

<引用文献・参考文献>

「中学校学習指導要領」解説－社会編－（平成11年9月文部省）

「中学校新教育課程の解説／社会」澁澤文隆・佐伯真人・大杉昭英著（第一法規）

「改訂中学校学習指導要領の展開社会編」澁澤文隆・佐伯真人・大杉昭英編著（明治図書）